



第 146 号

平成23年 9月30日

編集 旭川医科大学
発行 教務部学生支援課

(題字は初代学長 山田守英氏)



青い池紅葉 (美瑛町白金)

(写真撮影：耳鼻咽喉科・頭頸部外科学講座 教授 原淵 保明)

教授就任にあたり……………小林 博也………… 2	北海道地区大学体育大会が開催されました……………34
教授就任にあたり……………東 寛………… 3	2011年度団体合同コンサート「音楽の夕べ」……………35
卒業生の動向 (医 学 科) …………… 4	サマーコンサート……………36
卒業生の動向 (看護学科) …………… 5	体育大会が行われました……………36
授 業 評 価…………… 6	平成23年度解剖体慰霊式……………37
学生表彰式……………31	教員の異動……………37
医大祭2011を終えて……………萱場幸太郎…………32	訃 報……………38
医大祭2011写真……………33	インフォメーション……………38



教授就任にあたり

病理学講座免疫病理分野 教授 小林 博也

この度、7月14日付けで免疫病理分野（旧病理学第2講座）を担当させて頂くことになりました。私は、平成3年に本学を13期生として卒業し、数年の皮膚科臨床経験後、病理学第2講座にて研究を続けて参りました。私で4代目の教授になります。腫瘍病理（第1病理）、病院病理部と、これで病理3教室の教授は、全て本学卒業生が担当することになりました。伝統ある講座の名を汚さぬよう、一生懸命頑張りたい所存でございます。就任にあたり僭越ですが、ふと思ったことを書いてみたいと思います。

私がアメリカ留学から帰国した2001年前後から、大学改革が盛んに議論され、特に大学における教育の重要性が叫ばれ始めました。教育の重要性については全く議論の挟む余地はありませんが、研究との両立という悩ましい問題がありました。学生からの評価も受ける訳ですし、少しでも良い講義をして、学生に病理学の魅力をアピールする必要があります（将来、大学に残ってもらうためにも）。しかしながら、良い講義を展開して、全ての学生を満足させることは至難のわざです。ただ、講義があまり上手でなくても、最先端の治療技術を持っているとか、すごい研究をしているとか等、講義室では表現出来ない、立派な素養を備えた先生も多くいるはず。私の学生時代、講義はあまり上手ではないけど、臨床や研究に秀でている人が多くいる講座も魅力的に映りました。講義で上手く出来なところは、他の良い所（研究や病理診断）を示して、トータルに講座の魅力を表現して行きたいと考えております。学生さん達は、意外と各教室の業績を客観的に彼らなりに評価し、入局や進学しているのだと考えています。研究室をオープンにして、自由に議論、勉強できる雰囲気作りが大切だと思っております。

これまで私は、免疫、特に腫瘍免疫の研究をして細々論文を書いてきました。研究は真理を追求し、他の誰もが、未だ成し遂げていないテーマをとことん突き止める、というのが本来の理想形です。しか

しながら、時間、能力、お金等の制約があり、理想ばかりを追いかけるのは、正直厳しいものがあります。また、よく研究は楽しくなければいけないとも言われます。でも、研究を一度でもやったことがある人なら分かることですが、上手く行くことはむしろ少なく、失敗の連続でめげそうになることもしばしばです。しかしながら、気持ちを切り替えて前進し実験し続けなければ、結果すら出ませんので、忍耐も求められます。現実を直視し、こつこつヒットを打ち続けながら、科研費を当てるのが求められていると思います。それでも、たまに本塁打を放って、夢へと近づこうとする気力、意欲を保ちながら、研究できる環境を整えて行くことが、研究室を任された者の努めであると考えています。現実（現状）から夢の実現への努力、夢から現実へ引き戻される日常、が交互に繰り返される研究室があっても良いのではと、勝手に考えながら、手を動かして行こうと思っています。

これまで病理というセクションにずっと在籍してきたわけですが、これほどまでに、病理医不足が深刻だとは思っていませんでした。また、基礎医学研究を志す若手医師が、自分が若い頃（今からもう20年前ですが）に比べて、極端に少なくなっているという現状を目の当たりにして、目眩がする毎日です。研究でも、教育でも、スローガンを立ち上げて組織を運営していこうとしても、人が集まらなければ何も出来ません。講座で言えば、最初教授が研究をメインにやって行きたいと考えて、人集めをします。そのうち、その中から教育を重点的にやりたいとか、診断病理を極めたいとかいう人が出現して来るはず。これこそが、多様性であり、人の多様性が形成された組織ほど強固で、そして発展して行くはず。就任早々暗い話ですが、講座の人手不足が深刻で、存亡の危機に直面しています。偉そうなことを言う前に、まず人材集めが、私の喫緊の課題であるようです。



教授就任にあたり

小児科学講座 教授 東 寛

このたび、昨年3月にご逝去されました藤枝憲二先生の後を継いで、本年8月1日付けで旭川医科大学小児科学講座教授を拝命いたしました。

私は、昭和54年(1979年)に旭川医科大学を卒業し、吉岡一教授のおられた小児科に入局しました。同時に大学院課程にも進み、生体防御機構を専攻いたしました。それは、吉岡教授から、「免疫学は俺のできなかった分野であり、非常なノスタルジーを感じている。君は是非とも免疫学を志しなさい」という一言があったためでした。小児科へ入局して、3年目に、一年間、片桐教授のおられた第二病理教室にお世話になり、基礎免疫学の勉強をさせていただきました。大学院卒業後は、片桐先生のお計らいで、米国Dartmouth Medical Collegeの細菌学教室に留学する機会を得て、マウス白血病に対するCTLが認識する腫瘍抗原に関する研究に従事しておりました。臨床に戻ってからは、免疫学のバックグラウンドを生かして、アレルギー疾患、自己免疫疾患、先天性免疫不全症候群の患者の診療と臨床研究を続けておりました。しかしながら、血液悪性腫瘍疾患患者を担当する小児科医が少なくなったことから、自分の守備範囲を広げることが必要になりました。血液悪性腫瘍患者の治療は、医原性の免疫不全症がもたらす感染症との戦いでもあり、骨髄移植は、アロ免疫反応の制御をいかに行うかが重要であり、という訳で、私のバックグラウンドを生かせる場でもあった訳です。

平成19年(1997年)には、北海道赤十字血液センターの研究部に所属を移したのですが、輸血はいわば液体臓器の移植であり、それによって生ずる副作用は、臓器移植による急性反応ととらえることができます。従って、血液センターでの主たる研究テーマとした輸血副作用の原因の究明は、いままで得た知識を生かせる場でもあったことになりました。

また、私が血液センターに移籍した当時は、骨髄移植のもう一つの選択枝としての臍帯血移植の黎明期でもありました。やがて北海道臍帯血バンクが設立されたのですが、途中から私とその事務局長を兼

任するようになりました。私が移植に携わったことのある医者であったことを考えると自然の成り行きであったのだと思っています。

さて、かような経緯を経て、本学の小児科学講座教授を拝命した訳ですが、ご存知のように、小児科は、それ自体が多くの専門分野に分かれております。このことは、小児科に入院する子供は、主治医だけではなく、常に多数の異なる分野の専門家に見守られながら、医療を受けられることを意味します。臨床面においては、この特徴を最大限にいかせるような運営をいままで同様に目指してゆきたいと思っています。また、移植医療・再生医療など新しい医療が小児科医療にも導入されようとしています。こうした事から、他科との連携・協調も重要で、皆様と共同して、よりよい小児医療環境を築いてゆきたいと思っています。

研究活動は、言うまでもなく、大学の持つ使命の一つです。いままでの勢いを継続・発展させる必要があります。etwas neuesを追求して得られたneuesを世界に発信する、新しい治療法や検査法にチャレンジする、症例から学び、学んだ事を文字に残す、この3つを改めて目標として掲げたいと考えています。

また、医学教育も大きな変革があり、これから襟をただして、現状を勉強しなければならないと思っていますところですが、私にできることは、おそらく、講義を通して医学生に臨床免疫学の面白さをわかってもらうことであろうと思います。このことが、小児科入局者の増加に結びつくかどうかはわかりませんが、そう信じたいと思います。また臨床研修に関しては、有能な医局員と関連病院の先生方が身をもって、小児科の魅力を研修医に伝えてくれるに違いないと思っています。

最後に、少子化を迎えた今、小児医療の重要性は増すばかりであり、そうした中で、大学の小児科としての役割を全うするために、皆様のご支援・ご鞭撻を戴けますよう心よりお願い申し上げます。就任の挨拶といたします。

卒業生の動向(医学科)

平成23年3月25日(金)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成22年度		
			男	女	計
進 学	道 内		0	0	0
	道 外 その他		0	0	0
	小 計		0	0	0
就 職	道 内	旭川医科大学病院	4	1	5
		北海道大学病院	1	1	2
		市立旭川病院	2	2	4
		市立札幌病院	3	1	4
		その他	23	9	32
	計		33	14	47
	道 外	大学関係病院	5	7	12
		上記以外の病院等	15	14	29
	計		20	21	41
	小 計		53	35	88
未 定 ・ そ の 他			1	4	5
合 計			54	39	93

上記以外の病院名

道 内：旭川厚生病院、旭川医療センター、旭川赤十字病院、手稲溪仁会病院、天使病院、札幌東徳州会病院、NTT東日本札幌病院、北海道医療センター、KKR札幌医療センター、恵み野病院、富良野協会病院、滝川市立病院、新日鐵室蘭総合病院、帯広厚生病院、名寄市立総合病院、留萌市立病院、江別市立病院、砂川市立病院、遠軽厚生病院

道 外：筑波大学附属病院、名古屋大学附属病院、自治医科大学附属病院、信州大学附属病院、横浜市立大学市民総合医療センター、神戸大学附属病院、浜松医科大学病院、高知大学附属病院、徳島大学病院、慶応義塾大学病院、昭和大学横浜市北部病院、国立国際医療センター、新潟市民病院、川崎市立川崎病院、掛川市総合病院、沼津市立病院、災害センター、国際親善総合病院、東京医療センター、国保旭中央病院横浜市東部病院、神戸西市民病院、金沢医療センター、中頭病院、 他

卒業生の動向(看護学科)

平成23年3月25日(金)に本学を卒業した学生の進路状況は次のとおりです。

なお、個人情報保護法関連法律等の関係で氏名は掲載しておりません。

(学生支援課)

区 分		大学及び病院名等	平成22年度		
			男	女	計
進 学	道 内		1	1	2
	道 外 その他		0	0	0
	小 計		1	1	2
就 職	道 内	旭川医科大学病院	1	18	19
		北海道大学病院	1	6	7
		KKR札幌医療センター	0	4	4
		北海道社会保険病院	0	5	5
		その他	2	15	17
	計		4	48	52
	道 外	大学関係病院	0	5	5
		上記以外の病院等	1	7	8
	計		1	12	13
	小 計		5	60	65
未 定 ・ そ の 他			0	0	0
合 計			6	61	67

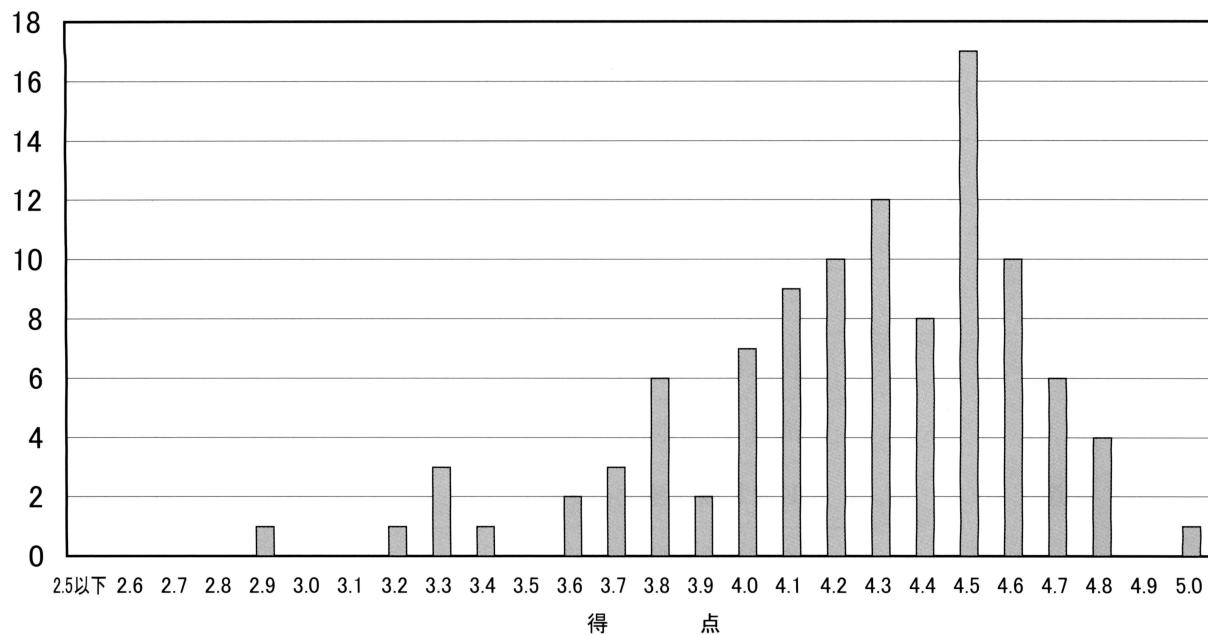
上記以外の病院名

道 内：旭川赤十字病院、市立旭川病院、札幌東徳州会、北海道医療センター、札幌厚生病院、手稲溪仁会病院、天使病院、別海町立病院、札幌市、名寄市、白糠町

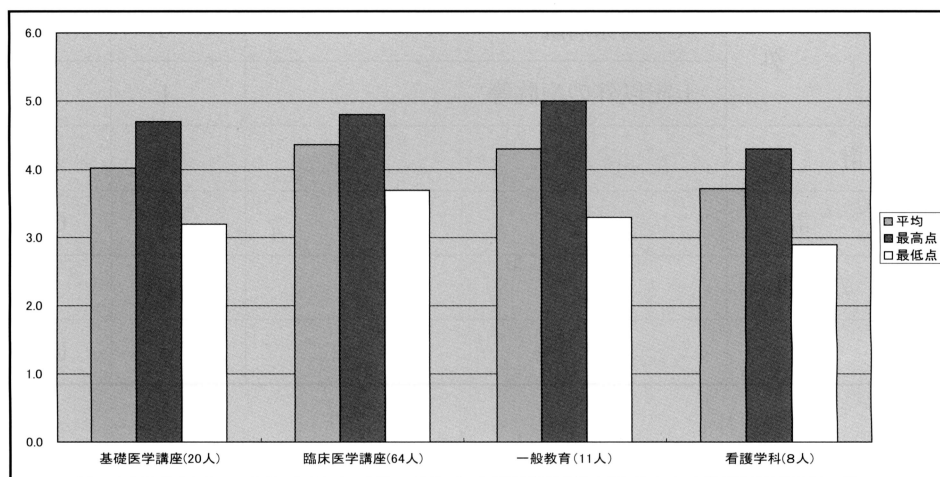
道 外：東海大学附属病院、東海大学附属病院八王子病院、順天堂大学病院、横須加共済病院、静岡ガンセンター、埼玉三郷中央総合病院、谷津保健病院、立川相互病院

平成22年度後期「講義に対する学生評価」における全教員の得点分布

人数	得点																									
	2.5以下	2.6	2.7	2.8	2.9	3.0	3.1	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	3.7	3.8	3.9	4.0	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	4.7	4.8	4.9	5.0
	0	0	0	0	1	0	0	1	3	1	0	2	3	6	2	7	9	10	12	8	17	10	6	4	0	1



部局別教員の平均点と最高・最低点



講義に対する学生評価

問 この授業は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う (非常に良い)
- ④ やや思う (良い)
- ③ どちらとも言えない (普通)
- ② あまりそう思わない (あまり良くない)
- ① 全くそう思わない (良くない)

科目全体の講義企画に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしましたか。 問2 授業に毎回出席しましたか。 問3 授業中に授業内容を理解するための努力をしましたか。 問4 授業の復習・宿題を毎回しましたか。
科目構成	問5 科目全体の履修目的は、履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問6 履修主題間および教員間で、内容の過度な重複は避けられていましたか。 問7 各履修主題に割り当てられた時間のバランスは適切でしたか。 問8 各担当教員は履修主題に沿って授業を行いましたか。
科目内容	問9 各履修主題の難易度は適切でしたか。 問10 科目全体の内容は理解しやすいものでしたか。 問11 科目全体の履修の目的は最終的に達成されましたか。 問12 科目全体の内容は今後の学習意欲を増すものでしたか。 問13 試験や提出物（レポートなど）の量と内容は適切でしたか。
総合評価	問14 この科目は全体として満足できるものでしたか。 ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い） ③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない） ① 全くそう思わない（良くない）

科目名：医学英語 I A（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：117 配付数：113 回収数：109 回収率：96.5%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	4.2	3.4	4.1	4.2	4.0	4.1	3.8	3.8	3.9	4.1	3.9	4.1

*評価に対するコメント

医学英語 I A 担当教員 内藤 永

問9や問10の回答分布と平均を見ると、この授業を難しいと感じる学生が例年よりも多くいたようです。この授業の到達目標、利用する新聞は10年以上変わっていません。全体的に新入生の英語力は徐々に落ちてきたことを実感します。授業展開を厳しくしましたが、多くの学生が非常に真面目に取り組んでくれました。是非、努力を継続して、英語力を伸ばして欲しいと思います。

科目名：医学英語 I B（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：115 配付数：111 回収数：107 回収率：96.4%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.0	4.1	3.5	3.9	4.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1	4.0	4.1	4.1

*評価に対するコメント

医学英語 I B 担当教員 内藤 永

英語で行われる授業ですが、その内容を十分に理解し、目標達成度、満足度も総じて高い結果でした。自由回答に寄せられたコメントもすべて肯定的なものでした。オーラルコミュニケーション能力を伸ばすためには、アウトプットの練習が大切になります。さらに意欲的に取り組んでほしいと思います。

科目名：基礎生物学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：116 配付数：111 回収数：110 回収率：99.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	4.2	4.1	3.4	4.2	4.2	4.2	4.2	4.0	4.1	4.1	4.3	4.0	4.4

***評価に対するコメント**

基礎生物学 担当教員 **立野 裕幸**

この科目では、ヒトを中心とした生物学について学習します。講義では学生諸君の勉学意欲を刺激するために先端的でやや難しい内容を扱うこともあります。一方で、理解不足の学生からの質問に対しては十分に時間をかけて丁寧に説明するよう心がけています。総合評価は4.4で、昨年度（4.3）と同様、ほぼ満足すべき結果でした。ただし、問1（予習）と問4（復習）は昨年（3.0）に比べてやや上昇したものの、相変わらず自己学習が不足気味です。能動的学習につながるような授業を目指して、さらに工夫を重ねてまいります。

科目名：医用物理学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：117 配付数：107 回収数：77 回収率：72.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	4.0	3.7	2.8	3.8	3.9	3.8	4.0	3.4	3.3	3.7	3.4	3.3	3.5

***評価に対するコメント**

医用物理学 担当教員 **本間 龍也**

総合評価は昨年同様の評価を頂きました。各項目別でも昨年に比べ高い評価を頂きました。特に問12の項目で0.3高い評価を受けました。昨年と同程度の試験を実施したのですが問13の項目で0.2低い評価を受けました。自己学習の項目の問1（予習）と問4（復習）の評価が依然低いことが気がかりです。これは、問13の項目の評価の低下と関連しているのかもしれませんが、担当していただいた先生には、この場をお借りしてお礼申し上げます。

科目名：基礎生化学（医学科第1学年通年／必修）
履修者数：119 配付数：118 回収数：102 回収率：86.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.1	3.7	3.2	3.8	4.2	4.0	4.0	3.7	3.6	3.8	3.7	3.8	3.7

***評価に対するコメント**

基礎生化学 担当教員 **中村 正雄**

科目構成は比較的良好な評価を受けているが、授業に対する意欲等には低い自己評価がなされ、科目全体としては昨年とほぼ同じ評価である。基礎生化学が化学の基礎から生命科学の最近のテーマまで扱うことから、より深い内容と平易な内容を求める、両端の声がある。両者を満足させる講義が今後の課題である。学生の質問に対し、教員が常時対応するようにしているが、説明の仕方が評価されており今後も努力したい。

科目名：遺伝学（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：113 配付数：112 回収数：110 回収率：98.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.4	4.3	4.1	3.6	4.1	4.0	4.1	4.2	3.9	4.0	4.0	4.1	4.0	4.2

***評価に対するコメント**

遺伝学 担当教員 **林 要喜知**

総合評価は昨年度と同じ点数であったが、点数に低い項目がすべて0.1-0.3ほど上昇した。効果は僅かだが、授業改善の働きかけが評価されてきたと考えられる。しかし、総合評価をさらにたかめるため改善の余地が残されていると感じられる。学生の積極的な自己学習がさらに進むよう質問対応やオフィスアワー活用をはかっていきたい。

科目名：医学英語ⅡA（医学科第2学年通年／必修）
履修者数：113 配付数：107 回収数：73 回収率：68.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.1	4.3	3.4	4.2	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.1	4.2	4.4	4.4

***評価に対するコメント**

医学英語ⅡA 担当教員 **三好暢博**

この授業は、読解を中心とする課題学習演習形式で、三好が一年間担当しました。テーマを固定し、段階的に語彙レベルを上げることで、語彙処理に要する短期記憶等の負担等を軽減するというモデルで展開し、学術誌レベルの英語の読解ができることを到達目標として設定しました。皆さんは、真剣に課題に取り組み、おおむね目標に到達していたと思います。多くの励ましのコメントありがとうございました。

科目名：医学英語ⅡB（医学科第2学年通年／必修）
履修者数：113 配付数：107 回収数：74 回収率：69.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.1	4.1	3.4	4.0	4.3	4.2	4.0	4.2	4.2	4.1	4.0	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

医学英語ⅡB 担当教員 **三好暢博**

英会話の練習・英語による討論を重ねることで、英語による情報発信力を培うのがこの科目の狙いです。授業は、Fairweather先生とGallagher先生に担当していただきました。講義担当者を代表し、Fairweather先生からのコメントを以下に記します。

With regards to the student comments, there were three main points I'd like to make some observations on.

The first is that two students commented that my writing on the chalkboard could be either bigger or clearer. This is a fair comment and I will make an effort to make my handwriting more legible.

The second point is that one student commented on the fact that I don't use Japanese in class. I think for the most part using Japanese is unnecessary and in fact its use prevents students from learning English. The vast majority of the students seem to understand what to do and how to do it, so I don't think it's necessary to make any changes in this case.

Finally, one student commented that I should call on students individually, instead of asking the whole class for answers, as shy students aren't able to have a chance to speak. This was a very good comment and I'll try to make sure everybody has a chance to speak in the future.

科目名：微生物学（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：117 配付数：107 回収数：79 回収率：75.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	3.8	3.8	3.1	4.0	4.2	4.0	4.1	3.6	3.4	3.8	3.7	3.4	3.7

＊評価に対するコメント

微生物学 担当教員 若宮伸隆

本教科は、平成22年度から旧基礎医学Ⅱを解体し、「薬理学」、「微生物学」、「寄生虫学」の独立3科目として展開されることになりました。21年度の授業評価コメントで、「どのような形態に編成してみても、知識の習得のための楽な道は無い。…基礎医学Ⅱの3領域の学習内容は、医学教育後半の臨床講義を受講する上での基盤として必須のものです。新しいカリキュラムにおいても、学生諸君の能動的な受講を期待しています。」と記述しました。しかし、平成22年度、十分な成果が挙げられず微生物学を含めて合格ラインに到達できなかった医学科第2学年の学生が相当数出たことは、非常に残念です。本教科の22年度の授業評価は、数値としては従来の基礎医学Ⅱの評価と同程度でしたが、コメント欄には「期末試験における日程が厳しい。」との記述が散見されました。勿論、期末試験日程についてはできる限り受験学生の負担を軽減するように調整しますが、膨大な量の知見が蓄積されている医学知識の吸収に対して、学生諸君のより一層の能動的な受講を期待します。そこで、出席については、従来までとはとりましたが、出席率と試験成績に高い相関がみられたことと、平成23年度からとることになりました。また、試験勉強にはプリントでは問題があるとする意見も見られたことより、平成23年度から教科書を指定し、教科書を基本とした問題作成を考えています。

科目名：寄生虫学（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：114 配付数：106 回収数：51 回収率：48.1%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.3	4.0	2.7	4.1	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2	4.3	4.1	4.5

＊評価に対するコメント

寄生虫学 担当教員 伊藤亮

学生の評価に基づけば、講義する側からのメッセージがかなり正確に伝わっている様子で、感謝です。ただし、回答率が50%弱であり、未回答の学生の意識が若干気になります。
定年前の教員からのメッセージを残します。
現在の日本国内では経験することがほとんどない寄生虫疾患を含む感染症が世界中で蔓延している現実を知る努力が必要です。いわゆるグローバル化により発展途上国からの寄生虫病原体の持ち込み、持ち帰りが最近急増しており、それに対応できる、少なくともそれを意識できる専門家に育ってほしいと思います。そのためにも地球規模での問題意識、国境のない疾病動態等への能動的な関心を高められる医学生に成長してほしいと祈ります。自分の目で実物をつぶさに観察する経験と訓練（体験と体感）がどのような時代でも基本でしょう。できるだけ早い時期に海外を経験することをお勧めします。地域から世界に目を向けられる人材になってほしい。そのフィードバックにより地域がより鮮明に見えることもあるでしょうし、自分の足元を見据える力になるでしょう。私の在職期間中、自分の足で体験、体感した流行地での疾病の実態を教材として取り込み、日本国内では旭川医科大学寄生虫学講座でしか受けることができない現場中心の講義をしてきたと自負しています。どんな小さな分野でもonly oneは生き残れるがNo. oneは難しいと研究者仲間と話し合うことが多いですが、私の研究室はonly oneの研究実績を有しており、今後のさらなる発展を期待しています。

科目名：薬理学（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：115 配付数：103 回収数：78 回収率：75.7%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.1	4.0	2.7	3.9	3.9	3.7	4.2	3.7	3.8	3.8	3.9	3.4	4.0

＊評価に対するコメント

薬理学 担当教員 牛首文隆

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患や病態に使用される薬物について学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。そのすべての分野を網羅することはできなかったが、高学年での講義の理解の助けになれば幸いである。今後もさらに薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科目名：基礎医学特論（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：113 配付数：103 回収数：80 回収率：77.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.2	3.6	2.6	3.9	4.2	4.0	4.2	3.8	3.7	3.9	4.0	4.1	4.0

***評価に対するコメント**

基礎医学特論 担当教員 西川 祐 司

平成22年度から本科目の講義数は半分になり、原則的に各講座の研究内容を1時間で紹介する形となった。学生の研究に対する興味を喚起するという本来の目的はほぼ達成されたと思われるが、一部の学生から、難度が高すぎる、目的やレポート課題があいまいであるなどの指摘を受けた。来年度に向けての課題としたい。

科目名：臨床医学概論Ⅱ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：92 配付数：79 回収数：48 回収率：60.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.3	3.6	2.5	3.8	3.9	4.0	4.2	4.1	4.1	4.0	3.7	4.0	4.1

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅱ 担当教員 吉田 貴彦

新々カリで社会医学領域を再編し倫理的側面が多くかつ臨床医学知識が少なく理解できる内容からなる「臨床医学概論Ⅰ・Ⅱ」。内容領域と名称とのミスマッチ、広範囲のオムニバス展開のため、科目全体の違和感が持たれていた。総合評価は昨年同様4.1で重複回避と各教員の改善が功を奏し安定期に入った感があるが2010年で終了した。当初より「学習意欲を高める授業か」が低評価であり、多様な内容のオムニバス方式の科目の難しさを感じた。

科目名：臓器別・系別講義Ⅱ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：94 配付数：87 回収数：61 回収率：70.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	3.8	2.9	3.7	3.6	3.7	3.9	3.7	3.6	3.7	3.9	3.7	3.9

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅱ 担当教員 羽田 勝計

臓器別・系別講義Ⅱは3年生後期に内分泌代謝系疾患と腎泌尿器系疾患を中心に第一内科、第二内科、泌尿器科、小児科、耳鼻咽喉科による講義で構成されている。全コマ数は60コマで、他の臓器別・系別講義と比較して相当数のコマ数であり、科目構成評価および科目内容評価は概ね3.7～3.9と各分野別にバランスの取れた構成である点が、学生からも一定の評価が得られていると思われる。総合評価を含め各評点は昨年度よりも高得点となっており、内容の充実度の高まりを反映しているものと思われる。一方、学生自身の評価として、授業の予習や復習が十分に実行されていないことが年度に続きあげられている。この点については、講義のスケジュールが短期に集中していることや、一つの臓器別・系別講義のコマ数が多いことが一因と指摘され、さらには試験日程に余裕のないことも今後改善すべき点としてあげられており、今後も引き続き検討すべき課題として残された。

科目名：臓器別・系別講義Ⅲ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：93 配付数：90 回収数：60 回収率：66.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.1	3.7	2.8	3.6	3.5	3.4	3.9	3.5	3.3	3.6	3.7	3.4	3.7

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅲ 担当教員 高 後 裕

臓器別・系別講義Ⅲは、膠原病、感染症および血液学を中心とした講義で構成されている。
全体を通して総合評価は3.7であり、これまで各科・各分野で協調して講義内容の整理・見直しをしてきた成果が出ていると思われる。
ただ、割り当て時間の割に内容が多いという意見もあり、実際に学生自身の評価として予習・復習が十分に実行できていないという結果であり、今後不十分な知識習得にならないような姿勢がより一層望まれる一方で、教員側もポイントを押さえつつ幅広い知識習得のしやすい講義内容への修正が必要であると考えられたため努力したい。

科目名：臓器別・系別講義Ⅴ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：94 配付数：83 回収数：55 回収率：66.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.1	3.9	3.2	3.7	3.4	3.6	3.6	3.6	3.4	3.6	3.8	3.6	3.7

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅴ 担当教員 千 葉 茂

科目全体の講義企画に対する学生評価は、全体で3.7ポイントとやや低かった。回収率も66.3%と低い。このアンケートの実施は講義が終了してから2カ月以上も経過した時点で、しかも本コースの試験終了直後に実施された。したがって、講義に関するアンケート実施時期としてふさわしくないと考えられる。なお、急患のために講義が中止となる場合もあった。これは大学としてのバランスにかかわる重要な課題かもしれない。

科目名：臓器別・系別講義Ⅵ（医学科第3学年後期／必修）
履修者数：94 配付数：91 回収数：40 回収率：44.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.6	2.9	3.5	3.4	3.3	3.5	3.0	3.1	3.3	3.3	2.7	3.2

***評価に対するコメント**

臓器別・系別講義Ⅵ 担当教員 籠 川 浩 幸

本講義は、眼科、耳鼻科、皮膚科の各科の講義であり、今年の試験のコーディネーターは眼科が担当であった。学生のコメントに多く見られたが、60分間の試験で90問弱の問題は確かに多すぎる。複数の科目の多領域からの出題で、問題は多くなりがちであると思われるので、試験問題数あるいは科目別の試験日程を設定するなどの工夫も今後検討する価値があると思われる。

科目名：臨床医学概論Ⅳ（医学科第4学年後期／必修）
履修者数：102 配付数：90 回収数：49 回収率：54.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.8	4.0	2.9	3.8	3.6	3.8	4.0	4.0	4.1	3.9	4.0	4.1	3.9

***評価に対するコメント**

臨床医学概論Ⅳ 担当教員 **小北直宏**

医学概論Ⅳでは系統別講義から漏れてしまう部分のカバーを目的とし、救急医療を社会的側面と臨床的側面から考えることを目指して開講しております。しかし、内容的には系統別講義と重複する部分が多く、その点を指摘する意見が寄せられました。救急医療はとりわけ社会性が高く、関連領域を含め我々が取り組むべき課題が山積しております。今後はこの概論を問題提起の場とし、解決の糸口を討論するような内容にしたいと考えております。

科目名：症候別・課題別講義（医学科第4学年通年／必修）
履修者数：101 配付数：90 回収数：46 回収率：51.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.2	4.2	3.4	4.2	3.5	4.0	4.3	4.2	4.2	4.1	4.2	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

症候別・課題別講義 担当教員 **蒔田芳男**

本講義は、「臨床講義の3層構造」として系統講義のあと医学チュートリアルを並行して開講されています。授業評価では、「他の講義とのかぶりが多い」との声をいただきますが、切り口が違うことに注目して履修していただきたいと思います。クリニカルクラークシップ開始前の知識整理に重点を置いた講義の展開になるよう努力したいと思います。

科目名：臨床検査学（医学科第4学年後期／必修）
履修者数：101 配付数：87 回収数：26 回収率：29.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.4	3.9	3.1	4.0	4.2	3.8	4.0	3.3	3.0	3.6	3.5	3.4	3.5

***評価に対するコメント**

臨床検査学 担当教員 **伊藤喜久**

今回も応分の評価をいただきました。講義を通じて少しでも臨床検査の基本的な考え方を学んでいただきたい。検査値を検査前、分析検査も考慮しながら丁寧に読みぬく、その先に見える一人一人の患者の病態生理を考える面白さを少しでも体得していただければ幸いです。

科目名：臨床薬剤・薬理・治療学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：101 配付数：78 回収数：32 回収率：41.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.0	3.7	3.0	4.0	4.0	3.9	4.2	3.9	3.8	3.9	4.0	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

臨床薬剤・薬理・治療学 担当教員 **松原和夫**

講義全体に関しては、本年も全般的に好評でバランスも良いという評価を受けたと思います。講義の理解しやすさという点では、評価が若干低くなっていますが、学生の習得度が高まるようさらに改善していきたいと考えています。試験に関しては、昨年度の難しいという反省から、より適切な内容にしたことが、高評価になったと思います。今後も、改善を重ね、内容の濃い理解しやすい授業に努めていきたいと思っています。

科目名：加齢・老化と高齢者の医学（医学科第4学年通年／必修）

履修者数：101 配付数：92 回収数：69 回収率：75.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.2	3.9	3.1	4.0	4.1	4.1	4.2	4.2	4.3	4.2	3.9	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

加齢・老化と高齢者の医学 担当教員 **奥村利勝**

臓器別ではなくいわば高齢者という年齢という尺度で分けした臨床医学横断的な分野である。少子高齢化と言われる現在、どの臓器別専門診療に関わる医師でも、高齢者診療において共有すべき医学的知識がある。各臓器別講義の内容と一部重複する部分があるかもしれないが、重複して講義される内容は、それだけ重要であることを認識して欲しい。また、臓器別講義の内容を本講義の内容で横断的に理解することは一人の患者を見る全人的医療を実践する上でも役立つことを確信する。総合評価は4.2でここ数年横ばいである。

科目名：選択必修コースI「臨床感染症学コース」（医学科第3学年後期／選択必修）

履修者数：29 配付数：29 回収数：20 回収率：69.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.0	3.9	3.0	3.8	3.3	3.7	4.0	4.1	4.0	4.0	4.2	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

選択必修コースI「臨床感染症学コース」 担当教員 **若宮伸隆**

本コースの平成22年度の受講学生は、第3学年29名でした。授業評価は、予習・復習等に関する問1、4を除いて、学生諸君に好評価を戴いたと思いますが、自由記載欄に「色々な立場の先生の話を開けて、貴重な時間でした。」とのコメントの他に、「知的興奮あふれる授業がある一方、普段の授業と同様のパワーポイント棒読みの授業も多く、当たりハズレの差が大きいコースでした。」とのコメントも寄せられました。本コースは、平成16年度に感染症の基礎を中心とする30コマのコースとして組み立てましたが、カリキュラムの改訂に伴って、平成23年度から15コマの選択必修コースとして再編成することになりました。感染症予防に関する総論を始めとしてコンパクトなコースにし、国試関連資料についても更新する予定です。多くの学生諸君の受講を期待しています。

科目名：選択必修コースⅠ「ニューロサイエンスコース」(医学科第3学年後期／選択必修)

履修者数：31 配付数：31 回収数：28 回収率：90.3%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.3	4.5	3.9	2.6	3.5	3.9	3.8	4.0	3.7	3.5	3.6	3.8	4.1	4.1

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅠ「ニューロサイエンスコース」 担当教員 **吉田 成孝**

今回のニューロサイエンスコースは3年生のみを対象としては初めての年で、受講生も減ったこともあり、きめ細かい授業ができたと思う。次年度からコマ数が半減するが、内容はあまり減らすことなく、充実した授業に努めていきたい。

科目名：選択必修コースⅡ「臨床腫瘍学コース」(医学科第3学年後期／選択必修)

履修者数：36 配付数：36 回収数：24 回収率：66.7%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.9	3.3	3.0	3.7	3.6	3.8	4.0	3.9	3.6	3.7	3.7	4.1	4.0

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅡ「臨床腫瘍学コース」 担当教員 **西川 祐司**

平成22年度の臨床腫瘍学コースは、新カリキュラムへの移行に伴い、医学科3年生のみを対象として開講した。学生達にとってはやや難解であったようであるが、基礎から臨床までの腫瘍学の全体像を掴むという本コースの目的は、おおむね達成されたと信じる。本コースは来年度から必修科目「腫瘍学1・2」として、3年後期から4年前期にかけて開講される。これを機にさらに充実した内容となるよう努力したい。

科目名：選択必修コースⅡ「メンタルヘルスコース」(医学科第3学年後期／選択必修)

履修者数：24 配付数：24 回収数：21 回収率：87.5%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.4	4.1	2.9	3.8	3.7	4.3	4.4	4.2	4.4	4.2	4.2	3.9	4.4

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅡ「メンタルヘルスコース」 担当教員 **千葉 茂**

科目全体の講義企画に対する学生評価は、全体で4.4ポイントであった。(回収率87.5%)。学生の講義を受けている態度も極めて良好であり、高い関心がうかがわれた。一部の学生からスライドのみの授業があり、できればプリントで資料を望むという意見がよせられた。これはもっともな意見であり、今後の講義技術としてすべての教員が念頭におくべきであろう。なお、本コースは平成22年度で終了した。

科目名：選択必修コースⅢ「救急・プライマリーケアコース」(医学科第3学年後期／選択必修)
履修者数：20 配付数：16 回収数：16 回収率：100.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.6	4.5	4.4	4.4	4.3	4.4	4.6	4.6	4.7	4.7	4.8	4.7	4.9

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅢ「救急・プライマリーケアコース」 担当教員 **小北直宏**

本コースは、少人数で、できるだけプラクティカルな講義と、参加者自身が自分で考える機会を設けることを主旨として行ってきましたが、例年希望者が多く次第に実践的な内容が制限されつつあったため、昨年よりまた原点に戻り20名限定ということで設定した結果大変好評を得て、非常に高い評価を頂きました。

新年度からコマ数が減らされましたが、プライマリーケアの基礎知識と実際に学ぶことを主眼に再構成し、より中身の濃いものにしていきたいと考えております。

科目名：選択必修コースⅣ「生体構造機能蛋白・病態解析コース」(医学科第4学年後期／選択必修)
履修者数：59 配付数：18 回収数：5 回収率：27.8%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.0	3.2	2.8	3.8	3.6	3.8	3.8	4.0	3.6	3.8	3.8	4.2	4.2

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅣ「生体構造機能蛋白・病態解析コース」 担当教員 **伊藤喜久**

学生諸君は興味を持って履修していただいたと理解しています。最新の研究の成果から臨床の最前線での応用展開に至るまで、蛋白科学を通じて幅広く学び広い視点から医学、医療を考える素地が醸成されれば、望外の喜びです。これからも新しい話題をさらに提供に努めてゆく所存です。

科目名：選択必修コースⅣ「臨床薬理学コース」(医学科第4学年後期／選択必修)
履修者数：42 配付数：35 回収数：17 回収率：48.6%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.9	4.2	2.9	3.7	4.1	3.9	4.1	3.9	3.9	3.6	3.8	3.9	3.8

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅣ「臨床薬理学コース」 担当教員 **牛首文隆、松原和夫、清水恵子**

臨床薬理学は、第2学年で学習した基礎薬理学の原理を臨床に応用する際に必須となる分野である。本コースでは、その理解のために、薬物の投与方法から薬物療法の問題点に至るまで、臨床の各分野で御活躍の先生方にその専門分野の講義を行って頂いた。今後も各科の先生方に御協力頂き、さらに臨床薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科目名：選択必修コースV「加齢と適応の医学コース」(医学科第4学年後期／選択必修)

履修者数：73 配付数：32 回収数：8 回収率：25.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.8	3.9	2.6	3.6	3.1	3.6	3.9	4.4	4.0	3.6	3.6	4.3	3.9

***評価に対するコメント**

選択必修コースV「加齢と適応の医学コース」 担当教員 **長谷部 直 幸**

アンチエイジング（抗老化）を考える上で、加齢に伴う生体の適応と破綻のメカニズムを理解することは不可欠であり、これを指して展開されているのが「加齢と適応の医学コース」です。第4学年の必修科目である「加齢・老化と高齢者の医学」と重複するところもありますが、高齢者によくみられる疾患解説を主体とする同コースとは異なり、より踏み込んだメカニズムの理解が目指されています。総合評価3.9は、この主旨を理解して講義を構成していただいている複数の担当科の先生方のご努力の結果であると敬意を表します。また学生自身の自学評価以外の全項目に渡って高い評価を得たことは、選択必修コースとしての充実度を反映するものと嬉しく思います。重複が指摘された点は、各担当者の意識する老化のキーワードが同種であることの反映と思われるのですが、今後若干の調整が必要と思います。不老長寿を夢物語とばかりは言えない医学の進歩も見据えながら、医学生とともに未来を志向する講義が展開できればと願っております。

科目名：選択必修コースV「EBM・CPCコース」(医学科第4学年後期／選択必修)

履修者数：28 配付数：28 回収数：12 回収率：42.9%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.2	4.3	4.5	3.8	4.2	4.1	4.2	4.3	4.1	4.2	4.1	4.3	4.2	4.0

***評価に対するコメント**

選択必修コースV「EBM・CPCコース」 担当教員 **奥 村 利 勝**

選択必修コース「EBM・CPCコース」は開講し6回目を迎えた。30コマの中前半15コマをEBMコース、後半15コマをCPCコースで構成し、即臨床実習・研修で役立つ生きた知識・考え方を習得出来るよう心がけた。今年度からの選択必修の制度変化に伴い選択者は28名と例年の参加人数より大人数であり、10名以下での今までのやり方からコースの実習の仕方を大きく変更した。今回の総合評価は4.0でまだまだ満足できるものでなく、学生諸君からのコメントを参考にコース全体の改善を図る。

科目名：選択必修コースVI「臨床遺伝学コース」(医学科第4学年後期／選択必修)

履修者数：20 配付数：17 回収数：11 回収率：64.7%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.2	4.8	2.8	4.4	4.4	4.3	4.5	4.2	4.3	4.5	4.5	4.5	4.6

***評価に対するコメント**

選択必修コースVI「臨床遺伝学コース」 担当教員 **蒔 田 芳 男**

講義部分の特論とともに、最終的に患者さんに伝える場合の問題点の討議する「ロールプレイ」や倫理問題の「ディベート」、家系図の書き方や遺伝情報の調べ方などの演習を組み合わせた2本立てのメニューで今年度は20名に履修していただきました。「遺伝にかかわる情報どのように患者さんに伝えるか？」が設置目的ですので、今年度も同様に開講したいと考えております。

科目名：選択必修コースⅥ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」(医学科第4学年後期／選択必修)
履修者数：81 配付数：59 回収数：15 回収率：25.4%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.7	4.1	3.1	3.7	4.3	4.2	4.2	3.9	3.8	3.9	3.9	4.3	4.1

***評価に対するコメント**

選択必修コースⅥ「糖尿病・内分泌Up-Dateコース」担当教員 **羽田 勝 計**

糖尿病・内分泌Up-Dateコースでは、基礎から臨床分野の糖尿病をはじめとした代謝疾患や内分泌疾患に及ぶ広い範囲の領域における最先端の医学知識を提供している。

学生の学習準備状況は十分とはいえないが、授業への出席については良好と思われ、このコースに対する学生の期待がうかがわれる。科目構成については、適切だったと判断できるが、科目内容については、やや難易度が高かったと判断でき、今後の授業内容についての工夫が期待される。

科目名：英語 I A (看護学科第1学年通年／必修)
履修者数：61 配付数：57 回収数：49 回収率：86.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.4	4.2	3.9	4.1	4.3	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

英語 I A 担当教員 **内 藤 永**

履修の主題に関わる評価が高いことから、この授業のテーマは十分に伝わったようです。授業開始当初、クラス内の英語の実力差はかなりありましたが、コツコツと課題を積み上げた学生も多くいて、学年末にはその差が縮まりました。上位の学生には物足りなさもあったと思います。将来的なニーズを踏まえて、個人学習を継続して欲しいと思います。

科目名：英語 I B (看護学科第1学年通年／必修)
履修者数：61 配付数：57 回収数：49 回収率：86.0%

***評価結果 (平均)**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.8	4.5	4.2	4.0	4.1	4.3	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.3

***評価に対するコメント**

英語 I B 担当教員 **内 藤 永**

個別の評価点を見ると、1と2をマークした学生がほとんどいませんでした。5をマークした学生がどの項目でも20人を越えていました。授業出席状況も非常に好成績であることから分かりますが、良い雰囲気の中で授業が進められたことが分かります。オーラルコミュニケーションの伸びは、クラスの雰囲気、つまり学生の参加意欲に大きく影響されます。是非、この雰囲気を継続して実力を伸ばしてください。

科目名：形態機能学（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：61 配付数：57 回収数：48 回収率：84.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.3	3.8	3.1	4.0	3.8	3.7	4.0	3.5	3.6	3.7	3.8	3.6	3.8

***評価に対するコメント**

形態機能学 担当教員 石川 一志

日本篤志献体協会の調査によると、養成職種別の解剖学単独の総講義時間数は、看護系においては60時間以上がほとんどであり（約75%）、90時間以上というところもある（約32%）。よって、形態機能学全体としては、濃縮された授業にならざるを得ない。先生方には、時間の制約の中で、非常に熱心に講義をして頂いた。せめてもと、試験を3回に分けて行ったが、学生諸君はよく勉強したと思う。今後も一生懸命勉強して下さい。

科目名：代謝栄養学（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：63 配付数：60 回収数：51 回収率：85.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.6	4.6	3.7	2.9	3.8	3.9	3.8	3.9	4.0	4.0	3.9	3.8	3.9	3.9

***評価に対するコメント**

代謝栄養学 担当教員 木村 昭治

代謝栄養学は基礎生化学と栄養学からなりそれらの授業配分は3：2となっている。その理由の大きなものは看護では栄養学の知識が以後の講義においてのみならず現場でも必須であるからである。生化学の素養はその他の専門基礎科目を理解するために重要であるが基礎的な事項、必要最小限に留めている。残念ながら本授業科目には専任の教官がおらず生化学分野は医学科の先生方に、栄養学は外部の先生にお願いしている。外部の先生の時間的な都合もあり3コマ続きの講義の設定を組まざるを得ないが同じ科目の3コマを集中して聞くのは少々つらいかもしれない。限られた時間内で膨大な範囲を細かくカバーするのは不可能であることは明白で、重要なのはむしろ学んだことを基礎として自分で学習することであろう。その際の支援は自身が求めれば各教官から容易に得られるであろう。評価点を見てみると科目の内容や構成については評価2以下の人が居ない、もしくは1人でありほぼ満足出来るものであった。従ってしばらくはこの講義様式を踏襲していくつもりである。

科目名：病態学（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：63 配付数：60 回収数：53 回収率：88.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.2	3.5	3.1	3.8	3.9	3.8	3.9	3.5	3.4	3.6	3.7	3.5	3.8

***評価に対するコメント**

病態学 担当教員 木村 昭治

病態学はほぼ全ての臓器と基礎医学の領域を扱うため内容は膨大であり、授業でカバー出来る量は限られているのでまず原理に重きを置き、それらを臓器の特殊性を加味して応用するという立場を取っています。病態学（病理学）を身につけることは病期の成り立ちを根拠づけて考えるということであり医療人にとって必要条件の1つです。試験はそのためにあえて難しくしています。再試験を受けることでよりよく身につくはずですが。評価点はおおむね満足するものなので講義方針は現状維持です。

科目名：薬理学（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：63 配付数：59 回収数：51 回収率：86.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.0	3.8	3.0	4.1	4.2	4.1	4.2	3.9	4.1	4.0	4.1	4.0	4.3

***評価に対するコメント**

薬理学 担当教員 **牛首文隆**

薬理学の講義は、薬物の生体での薬理作用を理解し、これを説明できるようになることを目的としている。様々な疾患や病態に使用される薬物について学習するため、その範囲は非常に多岐にわたる。1年生で薬理学の講義を理解するのは大変だったであろうが、授業評価は高いものであった。今後もさらに薬理学の理解に寄与する講義にしていきたいと考えている。

科目名：感染免疫学（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：63 配付数：60 回収数：51 回収率：85.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.6	3.2	3.8	3.8	3.7	3.9	3.3	3.5	3.6	3.5	3.5	3.7

***評価に対するコメント**

感染免疫学 担当教員 **木村昭治**

感染症は最もありふれた疾病であり看護の領域でもその予防を含め非常に重要な問題である。その科学的な理解は実践の場で日々生ずる問題の解決に対して大きな助けとなるものである。習得すべき知識や考え方は多岐にわたるが得られるものは大きい。評価点はおおむね満足出来るものであり、難解であるが興味深かったと感想を述べてくれた学生がいたがこれこそ我々講師陣の望むところである。

科目名：対人関係論（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：57 回収数：49 回収率：86.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.0	4.7	3.8	3.7	4.0	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.2	4.0	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

対人関係論 担当教員 **作宮洋子**

人間は一人では生きられず、人間関係によって家庭、学校、社会生活が成り立っています。人間関係が思いやりや愛情にあふれたものと感じ合うならば、心安らぐ関係となり、そこからは活力や元気、慰め、喜びが得られ、相互のところが成長します。看護師は一人の人間として、そして、病める人の看護師として、人の気持ちをまず一番に良い関係づくりを意識していただきたいと思っています。

科目名：英語ⅡA（看護学科第2学年・編入第3学年通年／必修）

履修者数：65 配付数：63 回収数：42 回収率：66.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	3.9	3.7	3.3	3.4	3.6	3.5	3.7	3.4	3.4	3.5	3.3	3.4	3.5

***評価に対するコメント**

英語ⅡA 担当教員 **三好暢博**

この授業は、読解及び聴解力を養成し、英語による情報受信能力を高めることを目的とていました。一年間、三好が担当しました。皆さんのレベルに大きなばらつきがあることに注意を払ったつもりですが、そのばらつきに十分対応できていなかった部分があると反省しています。特に、編入の学生さんには、難易度が高すぎたようです。また、勉強の習慣づけをサポートするような形での授業展開を希望するというコメントも頂きましたので、参考にさせていただきたいと思います。貴重なフィードバックに感謝します。

科目名：英語ⅡB（看護学科第2学年・編入第3学年通年／必修）

履修者数：65 配付数：63 回収数：40 回収率：63.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.3	3.7	3.5	3.2	3.3	3.5	3.5	3.6	3.5	3.5	3.4	3.3	3.6	3.5

***評価に対するコメント**

英語ⅡB 担当教員 **三好暢博**

医療や健康を題材とした英会話の練習を重ねることで、英語によるコミュニケーション能力を育成することが、この科目の狙いです。授業は、Gallagher先生に担当していただきました。Gallagher先生からのコメントを以下に記します。

A student mentioned disappointment with other students who talked too much in class. I think this is a good opportunity to think about this problem. The problem is not really about talking; it is about failing to listen. Students know that if they fail to listen to the teacher's instructions they will be confused and will not be able to study effectively. But we should also remember that listening when classmates speak is just as important. If we fail to listen to our classmates' answers, we will fail to learn from them, or we will bore our class by repeating the same answers. When we fail to listen to our classmates' news or ideas, it is not only rude, but we lose the opportunity to add comments and questions that further discussion. Students' comments and questions provide speaking and listening practice and add interest to the entire class. In English class, let us not forget that we have three tools for language learning: text, teacher, and classmates.

科目名：疾病論Ⅱ（看護学科第2学年通年／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：52 回収率：86.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	3.7	3.5	2.8	3.2	3.5	3.4	3.6	3.5	3.5	3.4	3.8	3.5	3.6

科目名：疾病論Ⅲ（看護学科第2学年後期／必修）

履修者数：61 配付数：60 回収数：51 回収率：85.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	3.7	3.5	2.8	3.3	3.3	3.4	3.5	3.5	3.5	3.4	3.8	3.5	3.6

***評価に対するコメント**

疾病論Ⅱ，疾病論Ⅲ 担当教員 **木村昭治**

評価の受け止め方はいつも難しい。例えば同じ講義であってもほとんど役に立たないつまらない講義であったという学生がいる一方で、非常に興味のある内容で面白かったという評価をする学生もいる。どちらも正しい評価なのであろうがおそらくその学生の科目に対する準備状況やバックグラウンドの知識の程度によるところが大きいと思われる。疾病論はカバーする領域が広く講師は医学科の各科の多くの先生方が担当している。それぞれの得意分野を講義されており従って内容はレベルが高いと思われる。一方で担当教官がテーマ毎に異なることから全体としてのレベルの統一性に欠けていることは否めない。従って学んだことを基礎として自分で学習することで達成レベルを調整する。その際に教科書を活用し不明な部分は自ら尋ねることとそれへの支援は各教官から容易に得られる。学生諸君の評価の善し悪しの判断根拠に授業内容において重要点の指摘があるかないかが良く出てくるがこれは自分の学習の結果、各主題で何が重要なのか自身が判断するものであって他人に指摘されるべきものではないと思う。教科書で説明されていることについて何故そう言えるのか、理由をどどん突き詰めて行って最終的に突き当たる部分が重要な部分なのではないか。考えるトレーニングこそ大学生には必要なのではないかと。

科目名：臨床心理学（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：70 配付数：65 回収数：36 回収率：55.4%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.7	3.6	3.3	3.1	3.3	3.4	3.4	3.4	3.5	3.4	3.5	3.4	3.4	3.4

***評価に対するコメント**

臨床心理学 担当教員 **丸山利弥**

「臨床心理学」では、知識を一方向的に伝えるだけでなく、実際の心理面接技法や心理検査に実際に触れる経験を重視した。この実習的な内容については一定の評価を得られたものと受け取り、今後の講義の中でも継続して取り組んでいきたい。

改善点としては、テキストや参考文献を明記することで学生の皆さんに予習の機会を提供し、理解の手助けとなるようにしたい。

科目名：看護理論（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：58 回収数：55 回収率：94.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.6	4.5	3.8	3.0	3.9	4.1	3.6	4.1	3.6	3.4	3.8	3.7	3.7	3.9

***評価に対するコメント**

看護理論 担当教員 **升田由美子**

新カリキュラムでは2年後期で学習することになった「看護理論」は、ピアレクチャー（グループワークを行い担当した看護理論について発表）により学びを深め、最後に看護過程論実習での看護実践に看護理論を活用しレポートを作成するという構成でした。ピアレクチャーについては準備時間の確保や評価方法等、改善の余地がありました。23年度は学生の皆さんの評価も参考に、講義内容・方法を計画したいと思います。

科目名：成人看護学Ⅰ（看護学科第2学年通年／必修）
履修者数：62 配付数：60 回収数：44 回収率：73.3%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	4.1	3.6	2.9	3.8	3.8	3.2	3.9	3.3	3.5	3.5	3.7	3.2	3.6

***評価に対するコメント**

成人看護学Ⅰ 担当教員 **加藤千津子**

成人看護学Ⅰは21年カリキュラムの変更により、2年後期から3年通年の授業が2年前期から通年の授業に変更になり6ヵ月前倒しになっています。疾病論などの未履修科目が多い状況下の授業進行であり、授業の構成や内容の検討を行い実施しています。また、5人の教員で担当していますが、第3学年・第4学年の実習担当などによる制約もあります。

資料（通しNo.）については事前（1週間前）に配付し、目を通して授業に臨んでほしいことをガイダンスで説明していますが、学生評価では問1が2.5、問4が2.9と低いことはとても残念に思います。

限られた時間の中で理解を深め学習効果を高めるためには、授業内容や構成などのさらなる工夫とともに、学生の事前学習・復習を期待したいと思います。

科目名：小児看護学（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：62 配付数：60 回収数：60 回収率：100.0%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.8	4.1	3.6	3.3	3.6	4.0	3.8	3.8	3.9	3.8	3.8	3.8	3.8	3.9

＊評価に対するコメント

小児看護学 担当教員 森 浩美

総合評価は3.0以上で、学生にとって概ね「満足できる」評価であったと考えます。自由記載には視聴覚教材の活用に加え、特に「臨床での話を例にあげた説明が興味深かった」というコメントが多くありました。「資料の量」等の課題はありますが、講義が小児看護の実際や現場への興味・関心の助長につながったのではないかと思います。今後も臨床での看護体験が大切な教材であることを認識し、講義に反映させていきたいと考えます。

科目名：母性看護学（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：61 回収数：56 回収率：91.8%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.9	4.1	4.0	3.2	3.9	3.7	3.6	3.9	3.8	3.9	3.8	4.1	3.7	4.1

＊評価に対するコメント

母性看護学 担当教員 黒田 緑

学生の授業評価全体については、事前学習について極端に低い状態である。意欲の問題だけではないと考えるが、事前学習意欲をどのように高めるかは教員にとって今後の課題と考える。看護専門職にとって、母性領域の教授や学習がどうあればよいか、人心の変化をもとらえながらさらに、双方向性の活気ある授業展開ができるよう学生と教員相互の努力が必要と考えます。

科目名：精神保健看護学（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：62 配付数：58 回収数：39 回収率：67.2%

＊評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.5	3.8	3.2	2.7	3.6	3.5	3.2	3.4	3.4	3.0	3.2	2.9	3.5	3.2

＊評価に対するコメント

精神保健看護学 担当教員 作宮 洋子

社会の複雑化に伴うストレスの増加、対人関係の希薄化によるコミュニケーションの減少や質の問題、また、災害による心の健康障害の問題など、日々、人間の心を支え、疾病からの回復を支援し、発達を促す精神保健看護の役割は増大しています。看護者に求められる精神看護の力量は幅広く大きなものがあります。看護の対象の健康回復を支援していくための自己の看護観と思考力を育んでいただきたいと願っています。

科目名：在宅看護学（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：55 回収数：34 回収率：61.8%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.2	4.0	3.3	3.2	3.4	3.6	3.4	3.5	3.6	3.4	3.5	3.2	3.1	3.3

***評価に対するコメント**

在宅看護学 担当教員 藤井 智子

21カリキュラムより、在宅看護学は15時間から30時間と時間が増え、強化された科目です。各看護学分野によるオムニバス形式で講義を行いました。在宅看護で出会う患者さん、ご家族は、小児から高齢者まで、そしてあらゆる健康レベルの方々です。その対象の多様さを考えると、学生にとっては難しい科目の一つだったのではないかと評価点からは推測されます。各教員の講義の意味するところを考え、在宅看護として統合するよう努力してください。学生のみなさんには、病室の患者さんの姿だけをみるのではなく、退院後、どのように生活しているのなるべくイメージしやすいよう、今後もわかりやすい講義を工夫していきたいと考えます。

科目名：地域保健看護学Ⅰ（看護学科第2・編入第3学年前期・通年／必修）
履修者数：70 配付数：69 回収数：68 回収率：98.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
2.4	4.0	3.3	3.1	3.6	3.7	3.5	3.9	3.7	3.4	3.6	3.4	3.5	3.5

***評価に対するコメント**

地域保健看護学Ⅰ 担当教員 北村 久美子

地域保健看護学Ⅰの授業内容は、地域で生活する人々の潜在・顕在する健康問題に対応した地域保健看護活動の原理・原則について学ぶことである。広く地域社会の健康、人々の幸福を追求してゆくことになる授業であり、「地域が看護の対象である」ことを理解できるまでには非常に時間を要すると思われる。学生の皆さんが興味と関心を持つことができるように授業内容が抽象的にならぬよう工夫し改善に努めたい。

科目名：発達障害看護学（看護学科第3学年後期／必修）
履修者数：70 配付数：70 回収数：63 回収率：90.0%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14
3.1	4.0	3.5	3.6	3.8	3.8	3.6	3.8	3.6	3.5	3.5	3.4	3.7	3.4

***評価に対するコメント**

発達障害看護学 担当教員 岡田 洋子

最も高い評価は「授業に毎回出席した」の4.0、最も低い評価は「事前に履修要項や教科書を読むなど予習をしたか」の3.1で、ともに学生自身に対する評価である。教員評価は3.4～3.8で、興味・関心のある学生は後期集中的に講義が入るのではなく、1週間に多くても1コマ～2コマでの展開を希望している。私の考えも同様である。

実習企画（または演習企画）に対する学生評価

あなた自身について	問1 事前に配布された資料を読むなど予習をしましたか。 問2 実習（演習）に毎回出席しましたか。 問3 実習（演習）に積極的かつ真面目に参加しましたか。
実習（演習）計画	問4 実習（演習）の目的は履修要項やガイダンスで明確に示されましたか。 問5 実習（演習）はおおむねスケジュールに沿って行われましたか。 問6 学生数に対して指導担当者数は適切でしたか。 問7 指導担当者は適切な指導能力を備えていましたか。 問8 指導担当者間の連携は適切でしたか。
実習（演習）内容	問9 実習（演習）の内容は、関連する講義科目の内容と対応がとれていましたか。 問10 事前に配布された資料は、実習（演習）を進める上で役立ちましたか。 問11 実習（演習）によって技術を十分に習得することができましたか。 問12 実習（演習）内容の難易度は適切でしたか。 問13 課された提出物（レポートなど）の量や内容は適切でしたか。 問14 実習（演習）は今後の学習への意欲を増す内容でしたか。
実習（演習）環境	問15 実習（演習）用の設備・機材・用具などは性能と量の面で十分でしたか。 問16 安全に対する適切な指導と配慮がなされていましたか。 問17 学生の人権に対する配慮がなされていましたか。
総合評価	問18 この実習（演習）は全体として満足できるものでしたか。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い） ④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通） ② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：基礎生化学実習（医学科第1学年前期／必修）
履修者数：112 配付数：107 回収数：89 回収率：83.2%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.8	4.2	3.7	4.1	3.7	3.7	3.5	3.6	3.9	3.8	3.6	3.4	3.4	3.5	4.0	3.8	3.5

*評価に対するコメント

基礎生化学実習 担当教員 中村正雄

学生諸君は基礎生化学実習の意義を理解し努力しているが、実験技術が未熟で正しい結果が得られない、これが評価に現れている。個別の提案や感想では、装置の不足と実験室環境の改善に関するものが多い。環境の改善は講義実習棟の改修が間近であり、数年後には解消されよう。高額装置の不足については、実験技術が未熟な間は相互指導が不可欠のため現状が妥当と考えており、ガイダンスでもその旨説明している。バイオインフォマティクス入門では、扱った生体分子を基礎生化学で改めて説明し、構造が機能にどう反映されるかの理解が深まるよう努める。

科目名：医用物理学実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：112 配付数：110 回収数：95 回収率：86.4%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.3	4.8	4.4	3.9	4.3	3.6	3.7	3.4	3.9	4.2	3.8	3.8	3.0	3.2	3.7	4.0	3.6	3.5

*評価に対するコメント

医用物理学実習 担当教員 本間龍也

昨年の助教の急な人事移動が、問6～8の評価の低下につながったと思われます。問12の評価はわずかではありますが年年上昇しています。実習テーマの改善の成果が現れてきたと思われます。レポートを手書きにしてから問13の評価は依然低いまです。ただ、レポート内容の改善をした結果かわずか（0.1）ではあります昨年より評価が上がりました。レポートのまとめ方・提出方法等を含め引き続き改善していくつもりです。

科目名：統計学実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：112 配付数：106 回収数：73 回収率：68.9%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.0	4.7	4.6	4.0	4.4	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.0	3.9	4.0	3.8	3.8	4.2	4.2	4.1

***評価に対するコメント**

統計学実習 担当教員 **高橋龍尚**

8割の学生が問18の実習（演習）項目で4以上の評価でした。これまでの最高評価を頂きました。以前から言えることですが、受講生の満足度と学習意欲・態度・能力には正の相関関係が認められることから、実習内容や難易度が十分であったとばかりは必ずしも言えず、今回のスコアに慢心することなく、改善と努力を継続したいと思います。レポート内容や実習内容についての個別のメール交換は学生の評価が高く、今後も充実させていきたいと思います。

科目名：心理・コミュニケーション実習（医学科第1学年後期／必修）
履修者数：112 配付数：109 回収数：106 回収率：97.2%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
2.9	4.2	3.7	3.7	3.8	3.7	3.6	3.6	3.7	3.6	3.5	3.7	3.4	3.6	3.6	3.8	3.7	3.6

***評価に対するコメント**

心理・コミュニケーション実習 担当教員 **高橋雅治**

受講者自身についての評価では、出席と受講態度についての評価が高く、受講者が実習に対して熱心に取り組んでいたと思われる。実習の計画や内容等についての評価は、ほとんどの項目が「普通」から「良い」の範囲（3.4-3.8）であり、一定の評価が得られた。また、環境や人員についても、3.6から3.8とある程度の評価が得られた。しかし、全体の満足度の評価は、3.6であり、さほど高い評価は得られなかった。コメント欄でも、前半の心理コミュニケーション関係の実習を評価する声が見られたものの、後半のコミュニケーション基礎論で課されるレポートの提出時期等に関する建設的なコメントが多く寄せられた。今後は、これらのコメントを参考にしながら、実習内容の改善に取り組んでいく所存である。

科目名：形態学実習（医学科第2学年後期／必修）
履修者数：114 配付数：103 回収数：87 回収率：84.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.4	4.9	4.7	4.7	4.8	3.7	4.3	4.1	4.6	4.6	4.2	4.1	4.2	4.6	4.2	4.4	4.4	4.6

***評価に対するコメント**

形態学実習 担当教員 **吉田成孝**

今年度から、従来の基礎医学実習Ⅰは形態学実習と名を改めて展開された。実習内容はほぼ例年と同じだが、AV機器の活用などを強化した。おおむね良い評価であると考え、教員の人数と難易度に不満を持つ学生が一定数いる。教員の連携の強化と内容の充実に努めたい。

科目名：社会医学実習（医学科第4学年後期／必修）
履修者数：99 配付数：90 回収数：28 回収率：31.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.1	5.0	4.7	4.5	4.5	4.6	4.4	4.5	4.4	4.1	4.3	4.4	4.5	4.4	4.3	4.7	4.9	4.6

***評価に対するコメント**

社会医学実習 担当教員 **清水 恵子**

健康科学と法医学が担当する本実習は、例年と同様に小グループでの個別実習と発表形式の報告会を行った。各テーマで精力的に実習、プレゼンテーションに取り組む姿勢が見られた。学生からは「講義と関連性があり、有意義な実習であった」との意見もあり、履修内容の理解を深める実りの多い実習になったものとする。授業評価の評点はすべて4点以上であり、学生サイドからの評価は概ね好評と言えよう。

科目名：自然科学実験（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：58 回収数：54 回収率：93.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.4	4.9	4.7	4.2	4.6	4.3	4.5	4.2	4.3	4.4	4.1	4.1	3.7	4.1	4.3	4.6	4.6	4.4

***評価に対するコメント**

自然科学実験 担当教員 **林 要喜知**

本年度の総合評価が昨年度より0.4上昇した。各教員の授業改善の取り組みがかなり評価されたものと考えられる。ただ、問13は未だ3.7であり、レポートなどの課題作成に負担を感じたことが推察される。実習後のレポート作成期間が別の実習と重なったためと考えられるが、実習の時間割りやレポート量・締め切りについて改善をはかりたいと考えている。

科目名：生体観察実習（看護学科第1学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：56 回収数：49 回収率：87.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.2	4.7	4.5	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.3	4.1	4.1	4.0	4.3	4.1	4.3	4.3	4.3

***評価に対するコメント**

生体観察実習 担当教員 **石川 一志**

6項目の実習を5グループ総当り方式で実施した。先生方には、熟達の指導を以って、楽しく実習をリードして頂いた。学生も、座学よりも実習が好きな様で、事前によく予習して実習に臨んだようだし、熱心な勉強の跡が伺えるレポートを提出して、お褒めに与ったグループもあった。前年度の心電計が古すぎるとの指摘には、生理学講座および検査部から2台の心電計をお借りして対応した。今後も、批判・要望には真摯に耳を傾けたい。

科目名：基礎看護技術学Ⅰ（看護学科第1学年通年／必修）
履修者数：61 配付数：57 回収数：51 回収率：89.5%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
4.3	4.7	4.5	4.5	4.4	4.4	4.5	4.3	4.5	4.6	4.0	4.2	3.9	4.2	4.3	4.4	4.2	4.4

***評価に対するコメント**

基礎看護技術学Ⅰ 担当教員 一條明美

基礎看護技術学は通年科目である。一年間を掛けて看護実践に必要な看護技術の基礎を学ぶ科目である。座学だけではなく実技を学ぶ点でこれまでの学習方法とは異なり、入学したばかりの1年生には戸惑うことも多く難しいこともあったと思う。しかし、学生の皆さんは真摯にかつ積極的に学習に取り組んでいたという印象がある。全体に高い評価はこうした学生の努力、そして皆さんと教員の相互作用の結果と考えている。今後もよりよい授業、よりよい看護の学びの場を目指して努力したい。

科目名：看護研究（統計学含む）（看護学科第3学年通年／必修）
履修者数：70 配付数：68 回収数：64 回収率：94.1%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12	問13	問14	問15	問16	問17	問18
3.1	4.0	3.3	3.0	2.8	3.1	2.6	2.8	2.9	3.1	2.5	2.3	2.2	2.2	2.9	3.3	2.8	2.5

***評価に対するコメント**

看護研究（統計学含む） 担当教員 望月吉勝

この科目は、「研究」という知的創造活動のための基礎づくりであり、単に教えてもらうではなく、自ら学ぶという「大学らしい」勉強です。「卒業研究」の準備として多岐にわたる内容を含んでおり、守備範囲が明確な科目に比べると達成点に分りにくく、負担感が強いのかもかもしれません。しかし、研究のプロセスに沿って体験的に学習することを意図した企画であり、だからこそ筆記試験は課さずに、努力の成果であるレポートで評価したのです。

臨地看護実習企画に対する学生評価

実習計画	問1 実習ガイダンスは、実習を円滑に行うために役立った。 問2 指導教員と実習指導者の連携はとれていた。
実習内容	問3 実習の内容は関連する講義科目と対応がとれていた。 問4 実習中に課せられた記録・提出物の量は適切であった。 問5 指導教員や実習指導者から適切な助言が得られた。 問6 教員・実習指導者の説明は具体的でわかりやすかった。 問7 受け持ち患者の看護の難易度は、適切であった。 問8 カンファレンスは実習に役立つ内容であった。
実習環境	問9 教員・実習指導者の対応は、学生を尊重したものであった。 問10 安全と事故防止に対する適切な指導と配慮がなされていた。
総合評価	問11 実習によって、看護職者を目指す意欲が十分に高まった。 問12 この実習は全体として満足できるものであった。

- ⑤ 強くそう思う（非常に良い）
④ やや思う（良い）
③ どちらとも言えない（普通）
② あまりそう思わない（あまり良くない）
① 全くそう思わない（良くない）

科目名：看護過程論実習（看護学科第2学年後期／必修）
履修者数：61 配付数：59 回収数：57 回収率：96.6%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	3.5	3.9	3.4	3.9	3.9	3.8	3.9	3.9	4.1	4.1	4.0

*評価に対するコメント

看護過程論実習 担当教員 升 田 由美子

今年度から新カリキュラム実施に伴い、60名が10病棟での一斉実習となりました。事前に実習指導教員と病棟指導者の打ち合わせを密にし、実習が効果的に展開されたと思います。看護者になる意欲、実習満足度がともに4点台であり昨年同様の結果でした。自由記載の記録量、提出期限の不公平感に関する記述は、学生、受け持ち患者、病棟の特徴などにより各々に学習進度が異なるため、指導もそれらに応じて変化することが影響していると考えています。

科目名：小児看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）
履修者数：60 配付数：60 回収数：52 回収率：86.7%

*評価結果（平均）

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
3.5	3.2	3.4	4.1	2.9	3.0	3.7	3.3	3.3	3.6	3.4	3.4

*評価に対するコメント

小児看護学実習Ⅰ 担当教員 岡 田 洋 子

本実習の目的は、健康な小児の成長・発達を理解し、保育に必要な知識や技術、態度を学ぶことです。実習場所は保育所で、実習期間は1週間です。

現代の学生は、社会の少子化、核家族化により小児と接する機会が乏しいまま成長し、実習に臨みます。そのため、実習は、学生が小児と多くの時間を過ごすような体験学習を中心とした形態としています。学生の評価で低かった「適切な助言」「具体的で分かりやすい説明」については、学生が小児という対象を理解する過程で示す必要な戸惑いを表していると考えます。今後も、これまでの実習体制を大きく変更する予定はありませんが、学生の実習状況を把握し、フィードバックのあり方については検討したいと思います。

科目名：地域保健看護学実習Ⅰ（看護学科第3学年後期／必修）

履修者数：60 配付数：60 回収数：52 回収率：86.7%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.2	4.2	4.2	3.8	4.3	4.3	4.1	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4

***評価に対するコメント**

地域保健看護学実習Ⅰ 担当教員 **北村 久美子**

地域保健看護の現状を知り基礎的な実践力を養うため10～11月にわたり市町村役場、訪問看護ステーションでそれぞれ6施設、1週間ずつ実習を行った。実習前には実習町の地区視診（地区診断）、技術演習を実施し学生個々に実技試験を行いフィードバック後、実習に臨んだ。また、実習開始前・後に学内で指導者会議を行った。学生による総合評価は4.4であった。このことは、学生自身が積極的に努力して実習に取り組み、現場の指導者の丁寧な指導の成果と思われる。今後も指導者と共に有意義な実習となるよう努めたい。

科目名：成人看護学実習Ⅰ（看護学科第4学年前期／必修）

履修者数：58 配付数：58 回収数：45 回収率：77.6%

***評価結果（平均）**

問1	問2	問3	問4	問5	問6	問7	問8	問9	問10	問11	問12
4.1	4.0	3.9	3.7	4.1	4.1	4.0	3.8	4.0	4.1	3.9	4.2

***評価に対するコメント**

成人看護学実習Ⅰ 担当教員 **阿部 修子**

評価の全体平均は、約4点では例年と同様でした。手術室実習とICU実習は、「貴重な体験ができた」と概ね好評です。病棟実習では周手術期看護を実習するため展開が速く、学生は「外科の実習はたいへん」という困難感を持っていることが多いのですが、呼吸器・循環器センターと消火器センターの外科病棟のご協力で、学生の満足度が4.2点と高くなっています。これからも関連機関との連携を深め、学生が満足できる実習を行いたいと思います。

学 生 表 彰 式

平成23年6月28日(火)に事務局第一会議室におきまして本学学生表彰規程の第2条の(2)「課外活動で特に顕著な成果をあげた者又は団体」により優秀な成績を修めた学生に対して学生表彰式が執り行われました。

当日は吉田学長より表彰状と記念品が授与され、輝かしい成績に対して祝辞が述べられました。

表彰者は以下のとおりです。

第84回全日本学生スキー選手権大会

女子2部 優勝

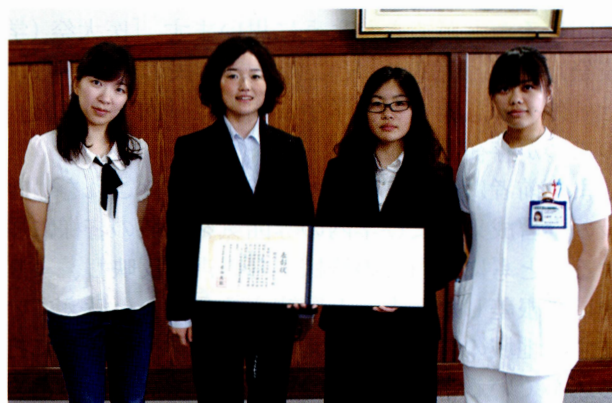
医学科第6学年 桑 名 梨里子
医学科第6学年 野々山 葉 月
医学科第5学年 古御堂 み な
医学科第5学年 合 地 美香子
医学科第5学年 安 田 さおり



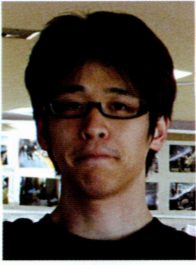
第63回北海道学生陸上対校選手権大会

女子800m走 優勝

看護学科第3学年 佐 藤 詩 織



医大祭2011を終えて



「馬肥ゆる…」というよりも、乙女心を彷彿とさせるような天気が続いている最近ですが、皆様お変わりはありませんでしょうか。

模擬店の売り子の呼び声がぶつかり、市民の皆様の笑顔が飛び交った医大祭から3ヶ月が経過し、テストに追われた学生の悲鳴がこだまし、土色の顔をした学生が学内を跋扈するようになってきました。

2011年度の医大祭は「UNiverCity」をテーマとし、学生と市民の融合した「より地域に根差した医大へと飛躍するための医大祭」をコンセプトとして取り組んでまいりました。ご来場いただいた皆様には、この想いをお届けすることができたでしょうか？医学展や講演会・公開講座や青空市など、市民の皆様へ向けた企画を特に力をいれて催行してまいりました。これらへの反響の大きさを見ますと（主観ではありますが）今年は市民の皆様からの注目を例年以上に感じた医大祭となったように思います。

この1年の準備期間を経て、医大祭を行う意義を垣間見ることができたように思います。「医大祭（学校祭）を行う意義」、そこには、市民の皆様へむけた「外への意義」と、学生に向けた「内への意義」の二つが存在します。

まず前者について。我々実行委員会はこの「普段の学習成果および学内の雰囲気」を地域の皆様へ届けるとともに、市民の皆様からの声を反映し、より地域に根差した医大へと飛躍すること」と考えています。地域の皆様から支えられて勉学や部活動に打ち込んでいる学生が、その恩に少しでも報いるための医大祭であること。これは、医大祭を行う上で大切な「意義」であることは間違いありません。医大祭を、平素より多大なるご助力をいただいております皆様への恩返しのお機とすることは、地域に根差した医大として肝に銘じておかなければならない概念だと思えます。

対して、「内への意義」を考えてみましょう。私はこれを「鍛錬の場」と考えます。我々は医道を歩んでいく過程で何万というメディカル・チームのメンバーたちと付き合いが必要があります。ある人はチーム・プレイヤーとして、組織の根もとを支える役割を担うこととなります。ある人はチー

旭川医科大学祭実行委員会

実行委員長 萱場 幸太郎

ム・リーダーとして、組織の舵をとる役割を担うこととなります。その中で、各々が各々の立場で失敗・挫折を味わうこととなるでしょう。ワンマンプレーでは、組織は上手く回りません。監督が采配を間違えば、有能なプレイヤーもその才を生かせません。チームが高みへ歩を進めるためには、どの役割を担う人間も、チーム・メイトの役割や本質を認知している必要が生じてきます。そのために、協調性を磨いておく必要が生じます（相互の情報伝達には、協調性が不可欠です）。加えて、チーム・メイトから発信された情報をきちんと受け止め、自身を昇華させるための柔軟性・他者を受け入れる人間性を有していることも求められます。これらがメディカル・チームの構成員全員に備わってこそ、最高の医療を提供できるようになります。この鍛錬の場こそ、医大祭であると言えます。

旭川医科大学には、講義で知識を、医大祭でメディカル・チームの一員としての資質をそれぞれ習得して、医療人としてさらなる高みを目指す仕組みが備わっています。しかし一方で、医大祭が「地域からの恩恵にゆだね、学生が医療人として飛躍するチャンス」であるにとらえられる学生は、まだほんのわずかしかないのが現状です。実行委員会に所属していない、部活動に所属していないという理由で、医大祭に参加しない学生も大勢いることが残念でなりません。旭川医大の末席を汚している私ですら少なからず成長したと思います。今回の医大祭を機に、有能な学生の皆さんが医大祭を自身の飛躍のチャンスであるにとらえ、積極的に関わっていく「流れ」が生まれることを切に祈っています。

最後になりましたが、様々な形でご支援いただきました地域の皆様や医大職員の皆様に、この場を借りて、実行委員会を代表いたしまして御礼申し上げます。本当にありがとうございました。今後も変わらぬご指導を、何卒よろしく願います。

先頭で引っ張らず、後ろから足を引っ張るだけの私を、根気強く支えぬいてくれた執行部はじめスタッフたちにも心から感謝しています。有能な仲間にも困られて、とても幸せでした（文字に起こすと薄っぺらになってしまうのが残念でなりません）。本当に、本当にありがとうございました。

医大祭2011が開催されました



北海道地区大学体育大会が開催されました

7月15日(金)、16日(土)、17日(日)の3日間の日程で第58回(平成23年度)北海道地区大学体育大会バスケットボール大会が本学を分担種目担当大学として開催されました。バスケットボールの担当は本年で4年目を迎え運営を担当する学生団体である男女バスケットボール部員も手馴れた運営で大きなトラブルも無く無事に大会を終了しました。なお、大会の結果としましては、右表のとおりとなりましたので報告いたします。

本学の男子バスケットボール部が大会の準備や運営に時間を要したにも関わらず、第3位という成績を修めたことは日頃の練習の賜物であり、他の大学にて開催されましたその他の競技におきましても、準硬式野球1回戦敗退、男子バレー予選敗退、女子バレーベスト8、サッカーベスト8、バドミントン男子ベスト16、剣道男子準優勝、剣道女子準優勝、

弓道男子第6位、弓道女子第4位、総合では男子第7位、女子第4位という本学の目覚ましい活躍が報告されております。

バスケットボール結果(分担種目担当競技)

男子 優勝 北海道教育大学岩見沢校
準優勝 酪農学園大学
第3位 北海道教育大学函館校
第3位 旭川医科大学

女子 優勝 北海道教育大学旭川校
準優勝 北星学園大学
第3位 帯広畜産大学
第3位 酪農学園大学



音楽系学生団体共催「音楽の夕べ」大学病院2階ロビーコンサート

平成23年7月23日(土)14時00分より大学病院玄関ロビーを会場として、本学の音楽系団体5団体により「音楽の夕べ」が開催されました。例年、夏休み前に行われているこのコンサートではありますが、今年は、天気もよくロビーの窓からも温かい夏の日差しが差し込む中での開催となりました。最初に、合奏演目の「津軽海峡冬景色」からはじまり、

「ギター部」、「合唱部」、「Jazz研究会」、「室内合奏団」、そして「ブラスアンサンブル」の順に日頃の練習の成果を発揮し、ご来場された皆さんの心を癒すことができていたようです。終了時にはアンコールの声がかかるほどで、アンコールでは、AKB48の曲を振り付きで披露し、大盛況のうちに終了しました。



▲津軽海峡冬景色



▲ギター部



▲ギター部



▲合唱部



▲合唱部



▲合唱部



▲Jazz研究会



▲Jazz研究会



▲Jazz研究会



▲室内合奏団



▲室内合奏団



▲室内合奏団



▲ブラスアンサンブル



▲ブラスアンサンブル



▲ブラスアンサンブル



▲アンコール



▲アンコール

ギター部 サマーコンサート

平成23年8月27日(土)14時00分より大学病院玄関ロビーを会場としてギター部のサマー・コンサートが開催されました。当日は、土曜日の夕方であ

れた方々も多くはありませんでしたが、その分、手拍子、拍手で演奏を盛り上げていただき、盛況のうちに終了しました。



体育大会が行われました

夏休みが終わったのに暑い夏がなかなか終わらない9月1日(木)に学生会が主催する体育大会が行われました。今年の大会も例年と同様にバスケットボール、バレーボール、ソフトボール、サッカーの4種目が企画されました。

体育館で行われた、バスケットボール、バレーボールは、外気温32℃、体育館の中の気温は35℃くらいあったでしょうか、汗だくになりながらも日頃の運動不足やストレスを解消するかのような熱戦が繰

り上げられました。屋外において行われたソフトボール、サッカーは快晴の中、普段なかなか運動をする機会の少ない学生も慣れない競技に戸惑いながら一生懸命プレーする姿に日々の勉強や前期試験週に挑む意気込みを感じました。

また、例年通り競技終了後に学生食堂で行われた交流会では日頃話をする機会の少ない学生同士が交流を深めていた姿が印象に残りました。



▲サッカー



▲ソフトボール



▲バスケットボール



▲バレーボール



▲バレーボール



▲交流会

平成23年度 解剖体慰霊式

平成23年度解剖体慰霊式が9月14日(水)午後1時30分より本学体育館において執り行われました。

慰霊式においては、本学学生等の教育及び学術研究用に尊い遺体を提供され、医学発展の礎石となられた方々の精霊の御霊に対して、ご冥福をお祈りするために黙とうが捧げられ、引き続き吉田学長と学生代表(医学科第3学年浜本雄一郎)から追悼の辞が述べられました。

その後、御遺族と御来賓の方々並びに教職員、学生の代表からの献花が捧げられ、亡くなられた方々の御遺徳を偲びご冥福を祈念しました。

追悼の辞

学 長 吉 田 晃 敏
 学生代表 医 学 科 3 年 浜 本 雄 一 朗

献 花

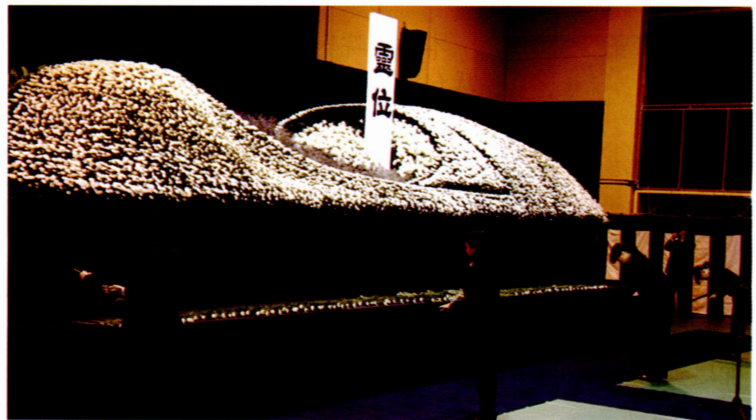
学 長 吉 田 晃 敏
 学生代表 医 学 科 3 年 浜 本 雄 一 朗
 医 学 科 3 年 櫻 谷 真 由
 看護学科2年 米 津 穂 香
 看護学科2年 渡 部 樹 子

謝 辞

教 授 吉 田 成 孝
 解剖学講座 (機能形態学分野)



▲学生代表 浜本雄一郎による追悼の辞



▲学生代表の献花

教員の異動

H23. 5. 19	昇 任	病 院	病理部	准教授	徳 差 良 彦
H23. 5. 28	死 亡				徳 差 良 彦
H23. 5. 31	辞 職				水 上 裕 輔
H23. 6. 1	昇 任	病 院	第三内科	講 師	田 邊 裕 貴
H23. 7. 14	昇 任	医学部	病理学講座 (免疫病理分野)	教 授	小 林 博 也
H23. 8. 1	採 用	医学部	小児科学講座	教 授	東 寛 史
H23. 8. 31	辞 職				稲 葉 雅 史
H23. 9. 1	昇 任	医学部	外科学講座 (循環・呼吸・腫瘍病態外科学分野)	准教授	東 信 良
H23. 9. 1	昇 任	病 院	第一外科	講 師	小久保 拓
H23. 9. 1	採 用	病 院	経営企画部	講 師	谷 川 琢 海

訃報



本学名誉教授 内田倅喜氏(81才)には、平成23年5月23日(月)逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、昭和48年9月29日本学設置と同時に、一般教育(化学)教授に就任され、平成7年3月31日定年により退職、同年4月1日本学名誉教授の称号を授与されました。

この間、永年にわたって、学生の教育・指導及び

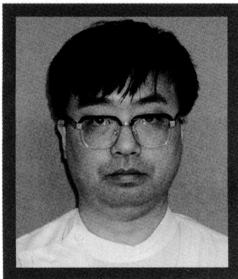
研究にご尽力され、本学の発展に多大な貢献をなされました。

また、学術研究面では「筋肉タンパク質ミオシンの構造と機能」に関する研究を永年続けられ、なかでも、ラット心臓の筋原繊維から、ミオシンを分解するタンパク質分解酵素を世界で初めて単離精製することに成功される等、その優れた功績は高く評価されております。

また、平成3年7月からは、図書館長に就任され、退館管理システムやLANの導入等、図書館の充実に寄与され、その功績は誠に顕著でありました。

(総務課)

訃報



本学病院病理部 徳差良彦氏(48才)には、平成23年5月30日(月)逝去されました。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

同氏は、病理学講座腫瘍病理分野(旧病理学第一講座)で病理学を研鑽された後、平成5年4月より、本学病院病理部、集中治療部、手術部に勤務され、本年5月19日に病理部准教授に昇任されました。

同氏は、永年にわたり、病理部において病理診断に真摯に取り組みられ、本学病院の診療に多大な貢献をされました。

また、外科病理学の専門教育及び研修医の指導を担当され、臨床病理検討会(CPC)の実施に尽力されました。

さらに、医学部での病理学講義、実習も担当され、多くの学生を熱心に教育されました。

同氏の病理医として類い希な資質は、病理関係者の間でも高く評価されており、今後のご活躍が期待されておりました。

(総務課)

インフォメーション

本学の行事予定 (10月～3月)

平成23年10月3日	医学科第2年次後期編入生入学式
11月5日	本学記念日
冬季休業	医学科 1年 (12月19日～1月10日)
	医学科 2年 (12月19日～1月13日)
	医学科 3年 (12月19日～1月6日)
	医学科 4年 (12月19日～1月4日)
	看護学科 1年・2年 (12月19日～1月10日)
	看護学科 3年・4年 (12月19日～1月6日)
後期試験週	医学科 1・2・3年 (2月13日～2月24日)
	医学科 4年 (1月24日～1月27日)
	看護学科 1年・2年 (2月13日～2月24日)
	看護学科 3年 (12月12日～12月16日)
進級試験週	医学科 5年 (2月20日～2月24日)
平成24年3月23日	学位記授与式